

## 横田の空兵、新しい髪型の基準

*Yokota Airmen let their hair down*

March 17, 2021

By Senior Airman Hannah Bean  
374th Airlift Wing Public Affairs

このたび、米空軍で取り決める髪型の選択肢が広がったことを受け、世界中の空兵たちは、安心して髪をおろせるようになった。従来のおだんご型の髪型から、ブレイズ、ポニーテール、またその中間の髪型も認められるようになった。

チーム横田の一部の女性隊員たちは、インクルージョンへのこの一歩は多文化共生を推し進め、また健康上の懸念を解消するのにも役立つと話す。

2021年2月10日改訂の空軍指令書(AFI)には、女性隊員の髪型について、脇までの長さのブレイズまたはポニーテールの選択肢が追加された。また、前髪を出す場合は、眉に触れてもよいが目を覆ってはいけないとしている。

「違いを認め合うことで前進できる。そして、異なるタイプの人々の文化を理解する足掛かりになる」と第36空輸中隊リソースアドバイザーサイド・士官監督官テーラ・サップ・ベッカー軍曹は述べた。

今回の改訂案は、服装や身だしなみのルールを改善するための提案を集めようと、女性のイニシアチブ・チーム(WIT)が行ったクラウドソースのキャンペーンから生まれた。WITは、従来の女性の髪型は、偏頭痛や髪の毛へのダメージ、さらには抜け毛などの健康問題を起こすことが往々にしてあると判断した。

「髪をまとめなくてはいけない時は、綺麗に見え、かつ、規則通りでなくてはならない。髪をきつく結んで12時間も仕事をしていると、頭が痛くなってくる。家に帰ったら、真っ先に髪をほどいている」と、第374空輸航空団指揮統制部緊急行動コントロール官オダリス・マルチネス・エリゾンドー等空兵は述べた。

エリゾンドー等空兵が、以前の髪型の規則で大変だったのは、基礎遠征空兵技術訓練(BEAST)ウィークと呼ばれる、訓練生が派遣地環境を模した訓練を行う基礎軍事訓練の時だった。大半の飛行で、これまでの規則を守つて戦闘訓練を行うには、髪をブレイズヘアにすることがよいと分かった。

「今回の新しい基準は、ギアやヘルメットの着用をより楽にし、プロフェッショナルとしてのきちんとした身だしなみも保てる」とエリゾンドー等空兵は言う。

また、「航空機乗務員の私は、飛行前に安全確認のためにヘルメットを被ったり外したりしてから、だんご型の髪型を整え直していく。乗務する時はヘルメットを被るため、またすぐにだんごの髪型が崩れてしまう。新しい基準では、きちんとしたポニーテールであれば認められ、装備を着けたり、仕事場を離れたりするたびに髪を直す必要が省かれる」と続けた。

今回の改訂は、空軍がより近代的で多様性のある文化を構築し続けるために検討している数多くの方策の一つである。

第374憲兵隊の税関入国審査官キマリ・フルトン等空兵は、「このたびの改訂を嬉しく思う。空軍がより柔軟になり、隊員に対し配慮してくれていることにほっとしている。この新しい規定は、空軍の将来に良い影響をもたらすと感じている」と述べた。

